



波打つ土手のコンクリートブロックを見る参加者。背中後ろが長良川＝海津市

# 河口堰の今 シンポで共有

愛知県が検討する長良川河口堰(三重県桑名市)の開門調査をめぐり、2、3両日、岐阜市の長良川国際会議場などで市民団体のシンポジウムが開かれた。韓国や長崎県からも市民や弁護士が参加した。

## 長良川を視察 ブロック湾曲に驚き

海津市の長良川サービスマンセンター付近の長良川堤防ではコンクリートブロックが約20センチ湾曲したり、外れかかったりしていた。1976年の決壊現場をみた後だけに、驚きの声が上がった。一部補修の跡もあり、講師の今本博健京大名誉教授によると、「盤膨れ」現象とみられる。「河口堰で上流水位を上げたため、水圧で堤防が押されて起きた現象ではないか。放置すると危険だ」と指摘した。(伊藤智章)

実行委員会」の主催。2日は、川瀬師が長良川の魅力を語ったほか、同様に環境回復のため河口堰やゲート開放が検討される韓国、長崎県・諫早湾の現状報告があった。約70人が聴講した。

3日は岐阜市から桑名市の河口まで長良川を見て回った。開門して上流の汽水域を回復させた際、周辺土壌の塩害発生の懸念が最大の障害だけに、国の水質監視装置の充実ぶり、田んぼの浸透水を排除する装置などを見た。

長良川河口堰  
開門へシンポ  
岐阜で市民団体  
長良川河口堰(三重  
県桑名市)の開門への

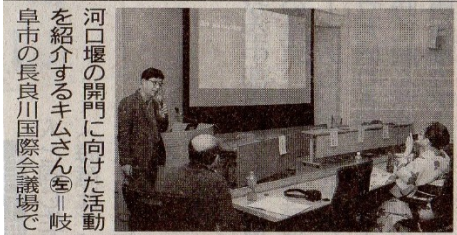
展望を探るシンポジウムが二日、岐阜市の長良川国際会議場で開かれた。

韓国にあるナクトンガン河口堰の開門に向けるなど、川の環境が

けて活動しているキム・キョン Chol さんが講演した。キムさんは「河口堰の運用開始後三年でシジミがいなくなるなど、川の環境が

2017/12/4 朝日新聞 아사히신문

2017/12/3 中日新聞 주니치신문



河口堰の開門に向けた活動を紹介するキムさん(左)と岐阜市の長良川国際会議場で

劇的に変わった」と説く。選挙中の政治家に、開門を公約にさせ

る活動を紹介し「市民たちの認識の変化に加え、政界の協力を取り付けることも大切」と話した。

開門の実現を目指す市民団体の長良川市民学習会などをつくる「よみがえれ長良川実行委員会」が主催。長良川河口堰は一九九五年に本格的に運用が始まったが、河川環境の悪化を懸念する声も出ている。(高橋貴仁)

案内役の在間正史弁護士は「冬場の非かんがい期に開門調査することは何の問題もない」と指摘。韓国から参加した洛東江河口堰の開門運動に取り組む非政府組織(NGO)の金敬哲さん(56)は「洛東江より開放への条件はいい。開放さ

## 河口堰の開門調査訴え 市民団体 長良川下流を視察



農業用水の揚排水施設前で説明する在間正史弁護士(手前)＝3日午前、海津市海津町

長良川河口堰(三重県桑名市)の開門調査実現を目指す岐阜市の市民団体などによる現場視察会が3日、長良川下流であり、約30人が参加した。

長良川市民学習会など28団体をつくる「よみがえれ長良川実行委員会」の主催。前日に岐阜市内で開いた「開門シンポジウム」に続き、「開門で塩害は発生するのかわ」をテーマに河口堰上流部の農業用水取水口などをバスで巡った。

2017/12/4 岐阜新聞 기후신문

れるべきだ」と訴えた。一行は1976年の9・12豪雨災害の決壊箇所や福束輪中なども見学し、治水

の歴史と合わせ理解を深めた。(堀尚人)